新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会 設立会議 及び 第1回協議会議事要旨

1 日 時 平成22年2月27日(土) 10時～12時15分

2 場 所 千葉市教育委員会第1・第2会議室

3 参 加

(1) 委 員 出 席 18人

代理出席 3人 高橋委員代理 - 鈴木氏

岡田委員代理 - 遠藤氏

関 委員代理 - 若林氏

欠 席 1人 佐々木委員

(2) 事務局 青葉教育総務部長

企画課 - 古舘主幹、戎谷主幹、杉江主幹、小川課長補佐、山崎主査補

学事課 - 芝崎主幹、伊原学務係長

(3) 傍聴者 2人

4 設立会議

(1) 概 要

代表協議会の設立の趣旨と委員選任の考え方を説明の後、新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会(仮称)の設立が承認された。

(2) 資 料

ア 資料A 「新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会(仮称)」について(案)

イ 資料B 「新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会(仮称)」委員名簿(案)

(3) 議事次第

ア 開 会

イ 出席者紹介

ウ 協 議

「新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会(仮称)」について

(ア) 協議会の設立趣旨

資料Aに基づき、代表協議会の設立の趣旨等について、事務局から説明があった。

(質問なし)

(イ) 協議会委員の承認

資料Aにより代表協議会の委員選任の考え方等について事務局から説明があり、協議会委員及び会の設立について承認された。

また、資料2の委員名簿を教育委員会ホームページに掲載して公表することについても了承された。

●発言要旨

鈴木氏：この3つの幼稚園・保育所に限定しないで、他地区に通わせている保護者のことも考えて、所属委員に他の幼稚園や保育所も入れた方がいいのではないかな。

事務局：これから入学する未就学児の保護者の声を聞くということで、この協議会の趣旨を説明した上で加わっていただいている。

笹本(宗)委員：事務局の担当者についても、名簿に記載してほしい。

事務局：次回、事務局の担当者名も入れて示すこととしたい。

(ウ)閉会

5 第1回協議会

(1)概要

ア 委員の互選により、座長に第8地区町内自治会連絡協議会会長の笹本(榮)委員が、副座長に新宿小PTA会長の岩瀬委員が就任し、議長を岩瀬副座長が務めることとなった。

イ 会の名称は、仮称をとり「新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会」とすることとした。

ウ 事務局より新宿小学校の現状と過大規模校化にともなう課題について説明があり、その後、質疑応答があった。

エ 会議は、概ね3週間に1回のペースで開催することとした。

オ 次回の開催日時は平成22年3月20日(土)10時00分から、場所は千葉市教育委員会第一会議室とすることとした。

カ 次回は、地区の説明会等が出された代案「新設校の設置」「既存校を活用した学区調整」「民間施設の活用」「増築または分校設置」のほか、基本案(事務局が提示してきた案)を検証・協議することとした。

(2)資料

- 1 新宿小学校の現状と課題について
- 2 過去の学区調整に係る経過について
- 3 意見を聴取するための基本案について
- 4 意見を聴取するための説明状況について

(3)議事次第

ア 開会

イ 教育委員会挨拶 青葉教育総務部長

お忙しい中、足元の悪い中、本日は当協議会に参加いただいたことに御礼申し上げます。

また、日頃より千葉市の教育行政にご協力をいただいております、あわせて御礼申し上げます。

新宿小学校は今後大規模校化が予想されており、それに備えた教育環境の整備が急務であ

る。今まで各地区等で説明会を行わせていただいたが、さまざまなご指摘・ご意見をいただいている。地域の皆さまに御理解と御協力を得て、協議をお願いしたいとの考えから本日の協議会設置及び第1回の協議会開催となった。本日よりの協議をよろしくをお願いしたい。

ウ 座長, 副座長の選出

●発言要旨

一 同：司会一任

事務局：司会一任との声があったので、座長は笹本榮一さんをお願いしたいと思うがいかがか。

一 同：異議なし

事務局：副座長についてはいかがか。

笹本座長：新宿小PTA会長の岩瀬委員をお願いしたいと思うがいかがか。

一 同：異議なし

エ 座長挨拶

笹本座長：地域にとっても大切なことである、委員各位の御協力ををお願いしたい。

岩瀬副座長：御協力のほどよろしくをお願いしたい。

オ 議長選出

●発言要旨

笹本座長：議長は岩瀬副座長をお願いしたい。

一 同：異議なし

カ 協議

(1) 新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会（仮称）の進め方等について

(ア) 協議会の名称について

●発言要旨

岩瀬議長：仮称をとって「新宿小学校の過大規模校化への対応に関する代表協議会」としたらいかがでしょうか。

一 同：異議なし

(イ) 協議会の進め方等について

●発言要旨

事務局：以下の内容について説明

○この協議会は、概ね3週間程度に1回の開催とする。

○1回の協議会は2時間程度とする。

○事務局が本協議会の議事要旨（案）を作成し、各委員に確認してもらった後、教育委員会ホームページに掲載する。

○本協議会の開催に関する周知については、教育員会ホームページに掲載するほか、委員には通知をお送りする。各委員にあっては、各所属団体等に開催される旨を

伝えていただきたい。

○スケジュール的には、5月いっぱい位までに本協議会としての方向性を出していただきたい。それを受けて地元の皆さまにも説明していきたい。また、予算も関連してくるので、秋の予算要望に間に合うように事務を進めていきたいと考えている。

●質疑応答 なし

(2) 新宿小学校の過大規模校化に関する現状と課題について

○事務局より、資料1に基づいて新宿小学校の現状と課題について説明し、以下の内容を補足した。

1. 新宿小の学校規模

- ・特別支援学級は現在5学級である。特別支援学級の児童数については、住民基本台帳にもとづいて推計はできないため、学級数には含めないで示している。
- ・平成22年度は24学級となっているが、学級編制の弾力的運用を適用し、1学級30人程度の規模とし、26学級となることも考えられる。
- ・表中の▲は、普通教室の不足を示す。特別支援学級は内部改修した教室を使用しているため、不足はない。

過大規模校となった場合に生じる課題について概観したが、さまざまな工夫によってその対応策も考えられないわけではない。しかし、大規模校が故に集団に埋没してしまう児童が生じないよう学級・学校経営が求められる。また、学習指導要領が完全にこなせるのが大前提であり、教育活動の工夫を十分に行っていく必要がある。

●質疑応答

笹本委員：大規模校になっても工夫によって対応できることをどうして資料に載せないのか。大規模校になるとできなくなるということが強調されすぎているように感じる。この説明は神明町や出洲港を出そうとしているようにしか思えない。事務局の口頭説明の中に、きめ細かい指導ということで1学級36人での学級編制が可能ということであったが、40人編制ではきめ細かい指導ができないのか。また、1学級40人以上、45人での学級編制はできないのか。ダメなことばかり挙げられていてその対策がのせられていない。子どものことを考えているのか。

また、大規模校になると「下校時、歩道がいっぱいになる」とあるが、セーフティーウォッチャーで立っているが、学年により下校時間が違うため、いっぱいになることはない。

高 委員：今の説明は、現状の学校の説明なのか。今は25学級でこれが37学級になった場合、受け入れられないという想定なのか。1344人は受け入れられるのか。学校規模が過大になると体育・音楽の授業で時間的に制約されるというが、施設の利用方法等で解決策を見出すことはできないのか。我々の当時は50学級ほどあった。37学級になったら受け入れられないということなのか。

事 務 局：説明したのは、あくまで今の新宿小学校の施設・校地の状況で、37学級になった場合どうなるかということで示したものである。新たな対応策を示したのではない。

高 委員：ある程度年数が来れば児童数は減るということも考えられる。地元で対応策を考えるということでやってもらわないとなかなか賛同できない。

事 務 局：対応策については今後示したい。

鈴 木 氏：6年前にも既に打ち合わせをしている。当時の記録もあるのに、検討されていないということに問題がある。マンションが建設され、保育所や学校の不足は予想された。若い方も購入できるような価格であり、業者もポスターなどに「学校が近い」等のPRをしていた。その弊害について十分解決されていないのに加えて、今回の提案・協議というのは納得できない。市としての街づくりの問題でもある。

事 務 局：数年前に2000戸以上の開発があり、若い方がたくさん入ってきた。また、こちらで子どもが生まれた方もいる。これから小学校に入るであろう児童がかなり多くなる状況である。

鈴 木 氏：市としての街づくりのビジョン、行政としての問題だろう。総合的に検討して街づくりをしなければいけない。東京ではマンションの建設をストップさせている。資料のような問題点だけ挙げられると「なぜ？」という気がする。

事 務 局：マンション開発は予想を上回る状況であった。今後、子どもたちのより良い教育環境で教育を行うため、十分に協議していただけるよう協力をお願いしたい。

笹本委員：資料にあるような弊害ばかりでなく、それに対する対応策も示していただきたい。こういう対応があるという資料として示してほしい。それがないと協議することができない。

事 務 局：宮崎小はじめ、さまざま資料を収集・整理している。次回は示していききたい。

吉岡委員：22年度は教室不足は大丈夫なのか。現状で大丈夫なのか、不足は生まれないのか。

事務局：22年度26学級、23年度27学級となっても23年度までは不足は生まれません。24年度以降は教室不足が発生するであろうと予想される。

○事務局より、資料2に基づいて、過去の学区調整に関わる経過について説明し、以下の内容を補足した。

- ・平成17年度の学区調整について町内会等への連絡に不手際があった。大変申し訳ない。1月の神明町説明会の際にも学事課長よりお詫び申し上げたところである。
- ・宮崎小の場合、学校隣の公園の借り上げ（町内会による）や運動会での観戦形態を工夫するなどしている。

●質疑応答

早川委員：問屋町に町内会を立ち上げたのが平成19年度である。千葉港には町内会がなかった。町内会がないと学区調整の説明会が行われるとき不安がある。説明会なしで学区調整が行われてしまうのか。

事務局：学区調整委員会では、地元住民への説明について配慮するようになっている。住民に対する説明会を開いてからということになる。

鈴木氏：町内会に関しては、地域振興課も関わってくる。地域振興課とも協力してやっていくべきである。「町内会を立ち上げてほしい」旨も含めてやっていくべきだろう。教育委員会単独でできないことは各課と連携していくべきである。

事務局：中央港については、市長部局の働きかけによって開発を待ってもらうように協議している。ご指摘の点については、関係課と協力してやっていけるようにしてまいりたい。

早川委員：マンション建設や街づくり、地域づくりにかかわる部署も加えていった方がいいと思う。

笹本座長：地域の方も多く入れたいということでこのメンバー選定となった。保護者の方は聞いているだけでいいのか。

笹本委員：オブザーバーとして各関係部署に来ていただければいいのではないか。

事務局：この協議会の趣旨に沿ってメンバーを選任した。今後資料等を含めて必要な場合は検討していく。

遠藤氏：問題点に対する解決策（対応策）が示されていない。この次には示してほしい。また、児童数について27年度以降の数字がわかるようにしていただきたい。その方が議論できる。

吉岡委員：問題解決ということでさまざま調べてみた。弁天小はもとは新宿中の分校であるため校舎も立派であり、文教地区でもある。現在もすでに新宿地区

からも通学している児童もおり、中学校は新宿中となるので地域とのつながりや組織も大きな支障はないと思われる。弁天小の状況についてはビデオにも撮ってきている。弁天小側としては歓迎である。

岩瀬議長：未就学児をもつ保護者の立場から意見はないか。

佐藤委員：（保育所の）隣りにある小学校でいいなと思ってきたが、保育所の所長より話を聞いてきたらということで参加した。普段はなかなかこういう状況になっていることはわからなかった。ホームページで調べたりした。まずは状況・経過を知りたいというところである。

○事務局より、資料3に基づいて、意見を聴取するための基本案について説明し、以下の内容を補足した。

- ・新宿小とともに宮崎小が大規模化が長い期間となっており、その解消も考えなくてはならない、この点において今までの学区調整とは違う意味合いがある。
- ・基本案は、新宿小・宮崎小・寒川小あわせて適正規模校化を図りたい。

○事務局より、資料4に基づいて意見を聴取するための基本案の説明状況について説明した。

●質疑応答

遠藤氏：当日に細かな説明をしてもらおうと、時間的な制約もありもったいない。効率的に進めるためにも次回からは事前に資料を示すことが可能ならばそうしてほしい。

事務局：できる限り対応したい。

鈴木氏：資料4に「新設校に反対」とあるが趣旨は違うのではないか。寒川は人口が減っており、末広にある用地への建設は反対ということではないか。問屋町などのように増えている地域への新設は反対ではない。

確保されている（末広の）用地はどのくらい広さがあるのか。市の土地なのか。

事務局：約16,000平方メートルで、一部公社が所有しているがほとんどが市の土地である。

高橋委員：その土地と他の用地は交換できないのか。

高委員：寒川地区でも同じような説明をしているのか。

事務局：こちらの話し合いにおいて新たな動きが出た時点で説明する旨を伝えている。

(3) 新宿小学校の過大規模校化を解消するための対応方策について

○事務局より、以下の内容を説明した。

・代替案として以下の案があがっている

①新設校の設置－問屋町地区への新設

②既存校を活用した学区調整 ・美浜区（幸町地区）の小学校への受け入れ

・本町小学校への受け入れ

・弁天小学校への受け入れ

・寒川小学校への受け入れ

・開発によるマンション入居者を新宿小学校以外へ受け入れ

③民間施設の活用－ポートサイドタワー、ポリテクカレッジ千葉キャンパスの活用

④増築または分校設置

・代替案については、通学時間や予算等示した上で次回以降検証していきたい。

・これ以外の代替案があればこの場を出していただきたい。

●質疑応答

岩瀬議長：ポリテクカレッジを見学したとのことであるが、その時のことを伝えてもらえないか。

笹本委員：今、事務局より代替案があるとの話があったのだから、次回以降でいいのではないか。

事務局：次回以降に示していくので、協議をお願いしたい。

笹本座長：次回からは、教育委員会の案を検討していったらどうか。

笹本委員：代替案を協議するにあたって、次の資料の提示をお願いしたい。

まず、新設校建設の費用、本体部分・内部がいくらで、そのうち補助金がいくら出るのか、億単位でいい。2つ目は、いま新宿中学校の南側でプレハブ教室を新築しているが何教室で費用はいくらなのか、3つ目が40人学級編制を45人等に増やすことができるのか、4つ目が弾力的運用を止める（しない）運営ができるかどうかである。

鈴木氏：いろいろ示すのも難しいのがあるだろう、すぐに示せないものもあるのではないか。具体的な結論を出すのは難しいのではないか。

笹本委員：この協議会で十分に話しあったらいい。

事務局：この協議会で合意した方向性をもとに地元への説明に入りたいと思う。

(4) その他

岩瀬議長：次回の開催日時ですが、先ほど事務局から協議会の進め方などスケジュールの説明がありましたが、今後、いろいろな資料や、調査をもとに、代替案を検証していくわけですが、各組織の中でも十分検討していただくことも必要なことと考える、従って、概ね3週間程度で協議会を進めていくことが妥当だと考えるがいかがか。また、開催日時は本日と同様に、土曜日の午前10時からとしてはいかがか。

一 同：異議なし

岩瀬議長：次回については、3月20日（土）午前10時から正午まで、このポートサイドタワー12階の第一会議室開催することとしてよろしいか。

一 同：異議なし

岩瀬議長：今回は3月20日（土）午前10時から、このポートサイドタワー12階第一会議室での開催とする。なお、開催の日時については、各組織の方にもお知らせいただきたい。この会は傍聴が可能なので、よろしく願いたい。

岩瀬議長：次に「(7) 諸連絡」、まず事務局から連絡事項をお願いしたい。

事務局：次回の協議会においては、笹本委員から要請のあった事項、事務局の担当者、大規模校における対応策等の資料を準備したい。

次に、議事録についてだが、議事要旨の案を作成して委員の皆さんにお送りするので、確認していただき承認または修正について回答をお願いしたい。回答がない場合には了解（承認）したとさせていただきます。

また、欠席する場合には連絡をいただきたい。代理で参加の場合も事前に連絡をいただきたい。連絡がない場合いには出席していただけると考える。各団体については委員の皆さまから周知をお願いしたい。

その他の問合わせは、教育委員会企画課へお願いしたい。

岩瀬議長：委員の皆さんから何かあるか。

若林氏：協議会の日程については次回に、それ以降（第3回以降）についても決めて示してもらった方がいいのではないか。

事務局：次回にはそのように示していきたい。

岩瀬議長：それではこれで議長の任を解かせていただく。

事務局：最後に笹本座長、挨拶をお願いしたい。

笹本座長：長時間にわたり協議をありがとうございました。次回以降もよろしく願いたい。

事務局：これで本日の協議会を終了とする。